

## 千葉県支部

### 北総地域における先進農業の実態調査

千葉県の農業は、平成 20 年度農業生産で出荷額は全国第 2 位である。首都圏という大消費地に隣接し、今後も食料供給基地として重要視され続ける。千葉県農業は多種多彩で、今回は消費者に特に関心の深い安全・安心・新鮮野菜生産を中心とした、都市近郊の北総台地地域を対象に調査地域を設定した。他の農家と比べて、企画、生産、販売活動等においてこだわりの経営を行う、先進的な魅力を持つ農業者を選び、基本的には直接訪問し、施設見学・ヒアリングを行い、さらにホームページの情報検索等により調査を行った。調査対象は「直販方式を活用している農家」「農協を活用している農家」「一般農業法人」「農事組合法人」「新規就農者」等、多岐にわたっている。

#### 1. 直販方式を活用している農家

生産物は、イチゴ、トマト、ナス、ピーマン、とうもろこし、枝豆、サツマイモなど他品種を生産。イチゴは JA の直売所で販売し、その他の野菜は道の駅で販売する。安全・安心志向の高まりで、消費者と生産者を結びつける「地産地消」を積極的に図る。

#### 2. 農協を活用している農家

新しい農業スタイルや新規就農を検討していく上で、従来型の農家モデルの一つとしての有用な比較検討材料である。農協組合員としての農協一辺倒の農家経営だけではなく、自己の販売チャネルの開拓と活用、食品メーカーからの委託契約栽培の一部導入など、新たなアプローチにも積極的に対応する柔軟経営も見られる。

#### 3. 一般農業法人

業態としては、立地に適した業容の拡大を目指すことが多く、多種兼業の可能性もある。

経営者のリーダーシップが取りやすく、商品開発、土づくり、栽培方法、流通など、新しい手法の導入のしやすい業態である。他産業からの参入がしやすい組織でもある。

#### 4. 農業生産法人

中核企業を中心となって設立した農業法人である。農業生産法人の設立に際しては、農地法に基づき生産者・農協・流通業者等複数業者が出資し、それぞれのノウハウを活かし、情報を共有し、協力していく体制である。

#### 5. 農事組合法人

中心となる農家のリーダーシップが発揮しやすい。当組合は古くから人参、スイカ、さといも、落花生などの作付けが行われ、優れた輪作体系が取られてきた優良な産地であり、さらに首都圏という大消費地を控えるという立地的には大変恵まれた地域である。

#### 6. 新規就農支援

元 IT 企業の経営者からの就農、農家子弟で小売業就業者が退社して就農、JA の所長を務め退職後、新規就農者の支援等、事業の一つとして、国の新規就農支援事業に基づく希望者の受け入れと、教育支援の内容を実施している農業組合法人がある。

以上、北総の先進農業の実態調査が新規就農者等へのよきアドバイスとなることを期待したい。